

科目（講座名）	音楽Ⅰ	2単位	必修選択
教科書	高校音楽Ⅰ Music View（教育出版）		

### 学習の目標

音楽の幅広い活動を通じて、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、創造的な表現と鑑賞の能力をのばし、音楽文化についての理解を深める。

### 授業内容

- ・呼吸法、発声法、共鳴法について学びより美しい発声が意識できるようにする。
- ・歌唱、器楽合奏などを通じて技術、表現力を高める。
- ・合唱、アンサンブルをおこない、仲間と一つの音楽を作り上げる難しさ、喜びを感じ取る。
- ・音楽を理解するために必要な基礎的事項を理解し、創作活動へと繋げる。
- ・鑑賞を通じ、芸術的表現への感性を高める。日本の伝統音楽を理解し音楽文化についての理解を深める。

### 学習方法

一斉学習、グループ学習

### 評価の観点

音楽への関心・意欲・態度	音楽活動の喜びを味わい、音楽や音楽文化に関心を持ち、主体的に音楽表現や鑑賞の授業に取り組もうとする。
音楽表現の創意工夫	音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感受しながら、音楽表現を工夫し、表現意図をもっている。
創造的な表現の技能	創意工夫を生かした音楽表現をするための技能を身に付け、創造的に表現している。
鑑賞の能力	音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感受しながら、解釈したり、価値を考えたりして、音楽に対する理解を深め、よさや美しさを創造的に味わっている。

### 評価方法

「音楽への関心・意欲・態度」「音楽表現の創意工夫」「音楽表現の技能」「鑑賞の能力」の4観点により授業中の様子・提出物・実技テストなどを通して総合的に評価する。

年間計画

学期	月	配当時間	単元	学習内容	学習上の留意点
1	4	9	楽典	・強弱記号・反復記号・変化記号拍子記号の理解	・単に知識として覚えるのではなく読譜に使用できるよう楽曲などを用いて理解する。
	5	9	器楽	・ボディ・パーカッション	・リズムを正確に読み取ると共にグループで協力して表現する。
	6	8	器楽	・クラシックギターの基礎	・クラシックギターの基礎を習得し、美しい音色・奏法で表現できるようにする。
	7			楽典小テスト	
2	9	8	器楽	・クラシックギターの基礎	・クラシックギターの基礎を習得し、美しい音色・奏法で表現できるようにする。
	10	10	歌唱	「発声法」「イタリア歌曲」	・正しい発声法を理解し、曲種に応じて発声を工夫する。
	11			「日本歌曲」「合唱曲」	・言葉のイントネーション、歌詞の内容を意識して日本語の歌曲に取り組む。
	12	4	鑑賞	和楽器・洋楽器の特徴を知る。  実技テスト（歌唱・器楽）	・様々な楽器の特徴、それぞれの楽器果たす役割について理解する。
	6	アンサンブル	ギター・キーボードによる器楽アンサンブル	・少人数グループで協力して選曲・練習に取り組み3学期に発表する。	
3	1	8	歌唱	「合唱曲」	・合唱を通じパートでの響きの統一、他パートとのハーモニーを理解する。曲に相応しい表現方法を理解する。
	2	8	アンサンブル	ギター・キーボードによる器楽アンサンブル	合奏の基礎を身につけると共に、グループで改善点を見つけ主体的に練習に取り組む姿勢を大切にする。
	3			器楽アンサンブル発表	

科目（講座名）	<b>美術 I</b>	2 単位	必修選択
教科書	高校生の美術 1（日本文教出版）		

### 学習の目標

- ・美術の幅広い活動を通して美的体験を豊かにし、美術を愛好する心情を育てる。
- ・観察や想像に基づいて自らの主題を表現する能力を育て、美術Ⅱへつながる絵画・彫刻・デザイン等の基礎を身につける。
- ・鑑賞の意欲、能力を育てる。

### 授業内容

鉛筆素描  
 自画像（アクリル）  
 デザインの基礎学習  
 彫塑による造形  
 鑑賞 など

### 学習方法

一斉授業  
 グループ学習  
 個人制作  
 DVDやビデオ等による鑑賞など

### 評価の観点

関心・意欲・態度	美術を愛好し、表現の主題や形式などに幅広く関心を持ち、意欲的、主体的に表現や鑑賞の活動を行い、その喜びを味わう。
芸術的な感受や表現の工夫	感性を働かせて美術のよさや美しさを感じ取り、豊かに発想し創造的表現を工夫する。
創造的な表現の技能	創造的な表現をするために材料・用具を生かして表現する技能を身に付けている。
鑑賞の能力	作者の心情や意図と表現の工夫、生活や自然と美術との関連、日本の美術の歴史などを理解し、そのよさや美しさを創造的に味わう。

### 評価方法

上記の観点について、出席状況、授業態度、制作過程や作品・レポート等の提出物の内容、鑑賞時の意見等を、年間を通じて総合的に評価する。

年間計画

学期	月	配当時間	単元	学習内容	学習上の留意点
1	4	4	鉛筆素描 「身近なものを描く」	描画材としての鉛筆の削り方 鉛筆の硬軟、角度、筆圧等の使い方による表現の違いを知る 基本形体の描き方 色相や筆の使い方を改めて学び、自分が表現したい色を出す。	筆記用に比べ、芯を長めにして削る。 カッターを使用する時、手を添えるなど安全面に気をつける。 鉛筆を重ね、濃い色も出せるようにする。 描き出し、中描き、描き込みと、段階を経て制作する。単純な塗り絵にならないように気をつける。
	6	2	鑑賞「視点と表し方」	作者の視点に着目して、表現の意図や工夫を読み取る	単なる知識としての鑑賞にならないよう、着眼点の面白さを伝える
	6	11	絵画「人物を描く」	身近な場所や風景からよさや美しさを感じ取り、視点や構図を工夫して絵に表す	身近な場所での出来事や印象などを思い出しながら風景を深く観察させ、よさや美しさ、不思議さや面白さなど見つけさせる
2	10	2	デザインの世界	身近なデザインに目を向け、生活とデザインの関わりを考える	好きなデザインを考える場合「なぜ好きなのか」ということを具体的に言語化させる
	10	2	「ポスターで伝える」	伝えたい内容と、イラストや写真と文字などを組み合わせてポスターで表現する	今回は構想だけであるが、情報伝達手段としてのポスターの機能に気付かせる
	11	2	鑑賞「日本美術」	日本美術の伝統的な表現や鑑賞の方法などから独自の美意識や創造性を理解する	絵具や描かれたものの違いなどだけではなく、生活の中での存在や位置づけの違いにも気付かせる
	11	2	鑑賞「彫刻の魅力」	彫刻の魅力を味わい、彫刻作品への理解を深める	形状の美しさを常に考えながら制作を進める。
	11	1 2	彫刻「生命感や存在感を表す」	表情や動きなどを感じ取り、生命感や存在感のある彫刻を制作する。	いろいろな方向から手を観察させ、平明な理解にならない様注意する

3	2	2	鑑賞「若冲と今を結ぶ」	映像メディアにより動きや奥行きをイメージして作品を味わう。	日常的に見慣れているアニメーションやCMなどの映像メディアの表現と絵画表現について比較させ、その相違点や共通点について意見を出させる。
	2	6	「キャラクターデザイン」	目的や使われる場面を考えて、キャラクターをデザインする。	具体物の単純化や特徴の誇張など、表現の方法についても考えさせる。

科目（講座名）	書道 I	2 単位	必修選択
教科書	書 I（光村図書出版）		

### 学習の目標

- ・書写能力を高め、文字について正確に理解し書の伝統と文化への理解を深める。
- ・古典の臨書を通して、書の美を理解し表現力と鑑賞力を高める。
- ・書の学習活動を通して、書を愛好する心情を育てる。

### 授業内容

- ・古典の臨書と鑑賞。技術はもちろん書かれた背景や歴史、筆者の心情や環境にも目を向け、広い範囲から書を理解する。
- ・用具、用材について正しい知識のもとに様々な表現技法を学習する。

### 学習方法

講義、一斉学習

### 評価の観点

関心・意欲・態度	書に関心を持ち、課題には積極的、意欲的に取り組み、またより一層の完成度の高い作品づくりを心がける。
芸術的な感受や表現の工夫	種々の古典技法や作品にふれて深く理解、鑑賞する能力を身につけ、それを自己表現へとつなげていく。
創造的な表現の技能	用具や用材について理解、研究し、筆墨のみの表現にとらわれない自由な態度で自己表現する。
鑑賞の能力	自己の感受性を磨き、幅広い作品に目を向け、その美しさが理解できて自己表現の糧としている。

### 評価方法

- ・臨書力、理解度、個の表現など毎時間の提出物
  - ・授業への積極性、学習態度、出席状況
- 上記の観点で総合的に判断し評価する

年間計画

学期	月	配当時間	単元	学習内容	学習上の留意点	
1	4	1 2	用具、用材	文房具について	・正しい知識を身につけ、表現に合わせて使い方や選別を考える	
	5		漢字	書の学習 書体の変遷について	・様々な書にふれて文字の美しさを鑑賞し、書の多様性に注目する	
	6		楷書	臨書	・それぞれの古典を鑑賞し、時代背景と書風を理解する	
	7			唐の四大家 「孔子廟堂碑」 「九成宮醴泉銘」 「雁塔聖教序」 「顔氏家廟碑」	・形臨を基本としながらそれぞれの字形の特徴を理解し、筆使いなどの用筆法を学ぶ	
2	9	1 4	行書	臨書	・楷書と比較しながら違いを確認する ・行書を日常的に使えるようにする ・書き順を確認する (行書体のみに使われる書き順を理解する)	
	10			「蘭亭序」 「風信帖」 「祭姪文稿」 「蜀素帖」		
	11			1 4		隸書
	12		篆書	「泰山刻石」		
			漢字の書 まとめ	創作 臨書や鑑賞を通して、字形・線質・書風の違い、用筆・運筆の特徴を理解し創作する。	・自分で語句を選び、イメージを決め用具、用材にまで留意する ・完成度の高い作品を目指す ・楷書、行書、隸書それぞれの特徴を理解して条幅作品を仕上げる	
3	1	1 6	かな	基本用筆、単体、連綿 「いろは歌」	・かなで使用する用具、用材の正しい使い方を理解する	
	2			臨書 「高野切第三種」 「蓬萊切」	・かな特有の文字の造形、行の流れ、線の太細、墨の潤濁などの美しさを鑑賞し、格調の高い美しいかなが書けるようにする	
	3		漢字仮名交じりの書	創作作品づくり 自己の表現	・各自選んだ言葉からイメージをふくらませ、今まで学習したことを活かして半切にまとめる	